

# 中学校第三学年 人権・平和学習（道徳） 学習指導案

福岡市立多々良中央中学校  
教諭 福岡 弘道

## 1. 単元名 「人権学習，平和学習三年間のまとめをしよう」

内容項目 4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること (3) 正義，公正公平

## 2. 単元の目標

- ・就職差別や国際的な人権課題を通して正義，公正公平の価値について理解する。 (知識・技能)
- ・就職差別や国際的な人権課題を多面的・多角的に考えることで，自己の生き方についての考えを深める。 (思考・判断・表現)
- ・就職差別や国際的な人権課題を通して自己を見つめることで，自己の生き方についての考えを深め，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 (主体的に学習に取り組む態度)

## 3. 評価規準

※観点別評価を行わないため，割愛。

## 4. 単元について

(教材観)

情報化，グローバル化が進展し，人々の価値観が多様化する中で，差別や人権課題の在り方もまた多様化している。一方新たな人権課題が登場する中で，長年解消に向けて取り組まれてきた部落差別や就職差別の問題も依然として残り，福岡市では「福岡市人権 8 課題」として重点的に解消への取り組みを進めている。一方世界には途上国を中心にいまだ深刻な人権課題が残り，紛争や政情不安の火種となっている。日本の課題も世界の課題も「構造的暴力」(J・ガルトゥング「人間が本来持っているはずの寿命、可能性、活動領域などが、社会構造や南北格差の中で損なわれ制限されている状態」)であるという点，そして解消が喫緊の課題であるという点では共通し，また安全保障や国際協調という観点から我々一人一人の生活と深く関係している。

本校では毎年 9 月に授業公開を含む人権学習習慣を設け，生徒の発達段階に応じて 3 か年を通じた学習を行っている。一学年では「身近な差別に気付く。」，二学年では「差別の歴史を学び，科学的認識を深める。」，三学年では「現代社会と未来を見つめ，実践につなげる。」というテーマを設け，平均 4 時間を使い学習している。また 1，2 学年は福岡大空襲，沖縄戦終結に合わせた 6 月に，3 学年は歴史的分野の学習を終えた二学期に平和学習をそれぞれ行っている。今年度の人権学習を計画するに際しては，例年就職差別のみを 4 時間で扱っていたところを，生徒の既習知識に鑑み世界の人権課題にも手を広げて 2 部構成に変更した。人権課題の根底にある「構造的暴力」という概念に迫り，グローバルな視野をもたせるために，就職差別 2 時間，世界の人権課題 2 時間に分割し，身近な差別事象から発展して世界的な人権課題の解消，そして自分自身の生き方に目を向けさせる構成とした。さらに第 3 時に平和学習をはさみ，第 4 時の授業への接続を考えながら，戦争や暴力と人権課題の密接な関連性を理解させるように配慮した。

### (児童観)

本学年の生徒は 171 名。1 年次から本授業者の社会科，人権学習，平和学習を履修している。日頃の授業に加えて，「世界がもし 100 人の村だったら」「ひょうたん島問題」などのワークショップや青年海外協力隊 OB の講話などを通じて，SDGs への理解も深い。例年行う人権教育・平和教育の授業後アンケートからは，どの生徒も意欲的に取り組んでいることが分かる。

### (単元の指導観)

まず将来直面しかねない身近な差別の事例として就職差別の現状と対処方法について学ばせる。その際，実際の差別事例や，受験生へのアンケート結果，社用紙と統一応募用紙の比較などを通して具体的に差別の現状を理解させるとともに，ロールプレイによって実践に向けての態度を養う。

次に平和学習の中で戦争の歴史を振り返り，現在の日本がおかれている国際的な状況について理解させる。その際「直接的暴力」から「構造的暴力」に目を向け，平和と人権保障の関係性を理解させることで次時につなげる。

最後に人権学習・平和学習グローバルな人権課題に取り組む人々の姿を通し，自分の将来を想像させる。その際ザンビアに青年海外協力隊理数科教員として派遣されている元当該学年職員とのビデオチャットを行い，身近な人が国際的な人権課題（SDGs ゴール 4）に実際に取り組んでいる姿から SDGs と自分の生活の距離の近さを実感させる。

## 5. ESD との関連

「互いの人権，文化を尊重する」ことを中心として，そこから国内や世界の人権課題の解消に向けて，ローカル・グローバルに取り組む生徒の育成を目指す。

関連する SDGs は「ゴール 1. 貧困をなくそう」，「ゴール 2. 飢餓をゼロに」，「ゴール 3. 全ての人に健康と福祉を」，「ゴール 4. 質の高い教育をみんなに」，「ゴール 5. ジェンダー平等を実現しよう」，「ゴール 10. 人や国の不平等をなくそう」，「ゴール 16. 平和と公正をすべての人に」である。

差別のない世の中，平和（積極的平和）な世の中を目指すことは，構造的暴力の解消が必要という点で共通する。戦争の根底には経済格差や人種間の不平等，教育の不備や貧困，飢餓などの構造的暴力が原因としてあり，それらの解消は SDGs のゴール 1～4 そのものである。そしてゴール 5,10,15 の実現により，さらに不平等を是正する方向に向かう。

6. 学習活動の概要 全4時間

主な学習活動	学習への支援	ESDの視点	ESDの資質能力
<p><b>第1時</b> 人権学習「こんなことを聞かれたら」</p> <p>1. 導入</p> <p>(1) 昨年度までの振り返り</p> <p>(2) 「こんなこと聞かれたら」(『ぬくもり』)朗読。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の問いの提示</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>【本時の問い】 違反質問の問題点とは何だろうか。</p> </div> <p>2. 展開</p> <p>(1) 「どれが違反質問？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問を違反か否かで分類し、班員と協議する。</li> </ul> <p>(2) 違反質問の差別性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・答え合わせ</li> <li>・どこが差別的なのか？</li> <li>・質問者の意図とは？</li> </ul> <p>(3) 違反質問の定義</p> <p>3. まとめ</p>	<p>○就職差別の問題を自分事として捉えさせるために、身近な入試の面接や、3年後の就職面接を例に考えさせる。</p> <p>○班学習で多様な意見が出るように、まず個人で考えを深めさせる。</p> <p>○多角的にとらえさせるために、自分の回答と班員の回答の共通点と相違点を意識させる。</p> <p>○「違反質問」を峻別できるように、「違反質問」とされる質問の共通点を考えさせる</p>	<p>多様性</p> <p>公平性</p>	<p>(シ)</p> <p>(ク)</p>
<p><b>第2時</b> 人権学習「続こんなことを聞かれたら」</p> <p>1. 導入</p> <p>(1) 詩「面接」朗読</p> <p>(2) 本時の問いの提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>【本時の問い】 就職差別を乗り越えるためにできることは何だろうか。</p> </div> <p>2. 展開</p> <p>(1) 違反質問、就職差別をなくすための取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統一応募用紙と社用紙の比較</li> <li>・社用紙の違反項目に丸印をする</li> </ul> <p>(2) 就職差別の現状 2019年の調査より</p> <p>(3) ロールプレイ「実践に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に違反質問をされたらどう答えるか。</li> <li>・「聞いて何がいけないのですか？」と返されたらどうするか。</li> </ul> <p>3. まとめ</p>	<p>○就職差別解消に向けた大人たちの取り組みを紹介する。</p> <p>○差別性の大小はあれ、違反質問や社用紙の使用は以前なくなっていないことを理解させるために、最新のデータを見せる。</p> <p>○実践力を身に着けるために、具体的な返答の仕方を理解させる。</p> <p>○ロールプレイの中で切り返しの質問を投げかけ、返答を各班で考えさせる。</p>		

<p><b>第3時</b> 平和学習「過去，現在，未来」</p> <p>1. 前時までの振り返り</p> <p>(1) 三年間の平和学習の振り返り</p> <p>(2) 本時の問いの提示</p> <p><b>【本時の問い】</b> 真の「平和」とは何だろうか。</p> <p>2. 教師によるプレゼン</p> <p>(1) 日本は「平和」か？</p> <p>(2) 過去を知る ～戦争とは何か～</p> <p>(3) 現在を知る ～現在の日本と世界～</p> <p>(4) 未来を考える ～課題解決に参加する～</p> <p>3. まとめ，次回予告</p>	<p><b>※別紙 指導略案参照</b></p>	<p>公平性</p> <p>連携性</p>	<p>(シ)</p> <p>(ク)</p>
<p><b>第4時</b> 人権学習「一人一人が人権を大切にされた社会とは」</p> <p>1. 前時までの振り返りと本時の問いの提示</p> <p><b>【本時の問い】</b> 一人一人が人権を大切にされた社会とはどのようなものだろうか。</p> <p>2. SDGs の実現</p> <p>3. ビデオチャット（日本・ザンビア）</p> <p>(1) 青年海外協力隊 理数科教育隊員（ザンビア） 山本直樹氏とビデオチャット</p> <p>(2) 青年海外協力隊の紹介</p> <p>4. 3か年間のまとめ ～未来に向けて～</p> <p>(1) LGBTQ について</p> <p>(2) まとめ ～君たちはどう生きるか～</p>	<p><b>※別紙 指導略案参照</b></p>	<p>多様性</p> <p>公平性</p> <p>連携性</p>	<p>(シ)</p> <p>(ク)</p>

1. 実施日、会場 2019年10月8日 4限目 体育館
2. 主眼
  - ・歴史を振り返り、現在の日本がおかれている国際的な状況について理解する。
  - ・「直接的暴力」から「構造的暴力」に目を向け、平和と人権保障の関係性を理解する。
3. 授業の展開

学習活動	留意点	配時
1. 前時までの振り返り (1) 三年間の平和学習の振り返り (2) 本時の問いの提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>【本時の問い】</b> 真の「平和」とは何だろうか。           </div>	○三年間の平和学習の内容を、スライドを使って想起させる。	5分
2. 教師によるプレゼン (1) 日本は「平和」か？ ・戦争状態でなければ「平和」なのか？ (2) 過去を知る ～戦争とは何か～ ・戦争の性質 「勝利最優先」, 「善悪の逆転」 「無差別性」, 「生命の軽視」 (3) 現在を知る ～現在の日本と世界～ ・日本と周辺諸国との関係 ・領土問題, 日米関係 ・フェイクニュース, プロパガンダとメディアリテラシーの重要性 動画 ウォルト＝ディズニー「空軍力の勝利」1943 動画 J・O トーキー漫画部「オモチャ箱シリーズ第3話 絵本1936年」1934 (4) 未来を考える ～課題解決に参加する～ ・S=ピンカー『暴力の人類史』2015 近年における「直接的暴力」の減少。 ・「構造的暴力」と真の平和 ・「平和について考えること」＝「人権について考えること」 ・「みんなにとって平和な世の中」＝「自分にとっても平和な世の中」	○3か年間の一貫性を持たせるため、例年通りの問いを全体に投げかける。 ○一学期に学習した社会科（歴史的分野 近現代史）の学習内容と関連付けて話す。 ○社会科（地理, 歴史, 公民的分野）の学習内容と関連付けて話す。 ○日米のどちらかに印象が偏らないよう、どちらの立場にも重みを置いて話す。 ○平和の実現と人権課題の解決, そしてSDGsの実現を関連付けて理解させるために、「直接的暴力」と「構造的暴力」を対比する。	35分
3. まとめと感想記入		10分

1. 実施日、会場 2019年10月11日 6限目 体育館
2. 主眼 ・グローバルな人権課題に取り組む人々の姿を通して、自分の将来を想像する。
3. 授業の展開

学習活動	留意点	配時
1. 前時までの振り返りと本時の問いの提示		2分
<b>【本時の問い】</b> 一人一人が人権を大切にされた社会とはどのようなものだろうか。		
2. SDGsの実現 ・17のゴールの中心となるゴール4「質の高い教育をみんなに」 動画 JICA 地球ひろば「SDGs GOAL4 質の高い教育をみんなに」 ・ゴール4の実現に取り組む人たち 青年海外協力隊 理数科教育隊員	○社会科（地理的分野 一年次「世界の諸地域 アフリカ州」）の学習内容を想起させるために、当時提示した写真を再び使う。	3分
3. ビデオチャット（日本・ザンビア） （1）青年海外協力隊 理数科教育隊員（ザンビア） 山本直樹氏とビデオチャット ※2017年度（一年次）本校当該学年に所属 ・志願した動機 ・ザンビアでの生活 ・現地の生徒たち ・三学年の生徒に期待するもの （2）青年海外協力隊の紹介	○生徒に意外性と驚きを感じさせるため、ビデオチャットを行うことも、山本氏が出演することも、この瞬間まで伏せておく。 ○授業に双方向性を持たせるため、講師と生徒の会話の時間を確保する。	25分
4. 3か年間のまとめ ～未来に向けて～ （1）LGBTQについて 動画 「ニュージーランド議会におけるモーリス＝ウィリアムソン議員のスピーチ」2013 ・「無知」「無理解」は「恐怖」「偏見」を生む。 ・「自分とちがうもの」「理解できないもの」を「否定」「排除」する傾向がある。 （2）まとめ ～君たちはどう生きるか～ ・感想の記入	○授業に双方向性を持たせるために、感想と共に講師への質問を記入させる。質問への解答は後日掲示する。	20分